

あとがき（一九九八年）

この本を書くにあたって参考にした本は、まず、多くの実験例が正確なイラストで描かれている『デモンストレイション物理』（G.D.Freier 著 後藤道夫他訳 大日本図書）です。三〇年以上前に書かれたこの本には、世界中から集められた約八〇〇種の物理実験が取り上げられています。その序文において、著者はつぎのように書いています。

「この多くの演示実験は、著者が取りまとめたものである。不幸にして、大多数のアイデアは時を経ているので、誰が考案したか、権利を認めることは不可能である。教育の分野では、教授法に対する既得権はつきりしていない場合が多い。したがって、この本は多くの現場の教師自身によって書かれたものと考えられる」と。

つぎに参考にしたものは、現在、活発な科学の普及活動をしているガリレオ工房（代表 I C U 高校 滝川洋二氏）の通信です。私もこのグループに属して例会に出ています。この通信には、毎月一度の例会（約五〇名参加）において発表される多くのユニークな実験例が記載されています。

また、一九九二年から毎年全国各地で開催されている「青少年のための科学の祭典」のガイドブックにも、日本各地の小・中・高校および大学における現場の先生方の多くの楽しい実験例が載っています。私は、この祭典の初期から四年間、全国大会実行委員長をつとめた関係で、多くの若いアクティブな先生方と知り合い、多くの実験の開発にも携わってききました。紙面を借りて、そうした先生方のご協力に感謝の意を表したいと思います。

著者

あとがき（一九九九年）

一九九九年の九月に、中国は長春の東北師範大学に招かれ、小中高の先生方と大学生を前にして、科学実験の実演指導をおこなってきました。そこで、いくつかの科学手品を披露したのですが、とてもウケました。

次に北京の科学技術館でも、大勢の館員を前にいくつか科学手品をやり、ここでもウケました。そのほか、中国国内の行く先々で、科学手品をやるたびに、もつとたくさん見せてくれと要望されました。

生まれ故郷の長野県飯田市では、六月から十一月にかけての延べ三七日間、小中学校を回って、巡回科学実験教室をひらきました。教育委員会の方々が中心になり、接した子どもたちは、延べ六〇〇〇人になります。

前著『子どもにウケる科学手品77』がきっかけとなり、いろいろなところで、先生方や子どもたちとふれあう機会が増えました。これからも、科学手品を通して、どんどん交流の輪を広げたいと思っています。

また、各地を回っておりますと、みなさんからあたたかいご支援の言葉をいただき、中には、新しい科学手品を教えてくださいとさる方もいます。お名前もあげずに恐縮ですが、そういう方々に、この場を借りて御礼申し上げます。

今回もまた、ガリレオ工房（代表 ICU 高校 滝川洋二氏）の通信、および「青少年のための科学の祭典」のガイドブックを参考にさせていただきました。これにつきましても、この場を借りて御礼申し上げます。

著者